通り土間の窟

回遊式庭園である三景園では、歩みに応じて「景」が次々とひらかれ、それを切り取り楽しむために
数寄屋建築や開口の大きい東屋が置かれている。
豊かで開かれた表層の「景」に対して、庭園を巡った先に必要な体験は、
内部であることそのものを感じられる原初的な深層の「窟（いわや）」である。



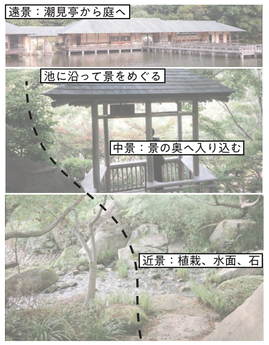
「景（けい）」



「窟（いわや）」

三景園の「景」

三景園には、庭園の景色を楽しむための建築物や東屋がいくつか設けられている。その多くは、景色や風、光を「景」として感じられるよう、壁が少なく開放的なつくりとなっている。



景の表層

歩みを進めると次第に植生の密度が高まり、庭そのものとの距離が縮まる。遠景・中景だった「石」の、その岩肌の表情がわかるほどに近づき、景の表層への解像度が高まる。



周辺環境

石的な表層とモルタルの外壁の建築

対象敷地は、石の階段を登った先に現れ、裏手二方向を石垣に囲まれ、コンクリートで覆われた広場の隅に位置している。隣接する空港工事で多くの岩石が産出され、それを「景」に活用して庭園が整備された経緯からこのような景色が顕著である。



南東アクソメ図（調査時の 3D スキャンデータを統合して作成）

対象建築物

既存建築物は外壁がモルタルコテおさえ（吹き付け仕上げ）であり、周辺に呼応した「石的」な外装を纏っている。





S01 断面図 | 1:20 | 寸法 mm

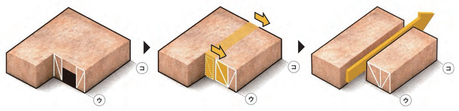
窟（いわや）へ：石的な空間の中へ入り込む

庭園を巡った先に、外を見るための建築ではなく石的な空間の内部、窟（いわや）に身体を預ける。景から、窟へ。地形に包まれる原初的な体験へ反転する空間をイメージした。

イメージのスタディ

ボリュームを操作したかのような壁配置による通り土間

壁量を維持したまま、ボリュームが分割したような壁配置にすることで、光と風と視線の抜けを一筋の通り土間を与えた。





南側立面



断面計画

半地下のような環境から、石垣および犬走までの空間を休憩室の内部と一体化してとらえることができないかを考えた。地層が積み重なったような断面計画によって石垣が地層のひとつのレイヤーとして認識され、外部の空間を取り込み、内部空間を拡大する。





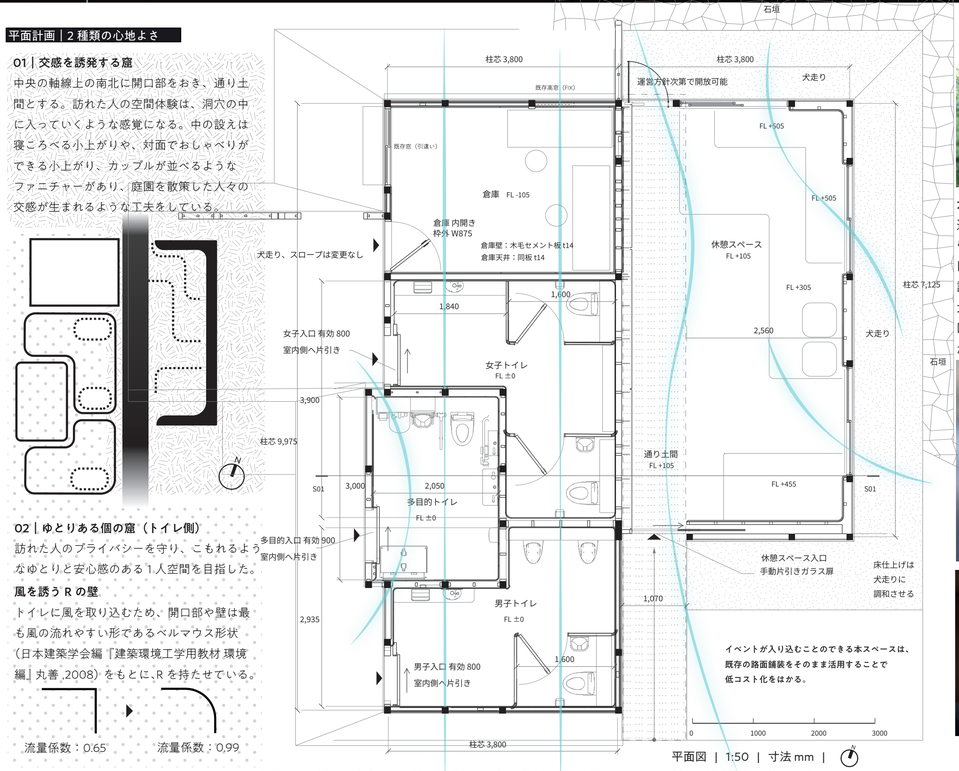
石垣と室内の関係をみる



平面計画｜2 種類の心地よさ

01｜交感を誘発する窟

中央の軸線上の南北に開口部をおき、通り土間とする。訪れた人の空間体験は、洞穴の中に入っていくような感覚になる。中の設えは寝ころべる小上がりや、対面でおしゃべりができる小上がり、カップルが並べるようなファニチャーがあり、庭園を散策した人々の交感が生まれるような工夫をしている。



02｜ゆとりある個の窟（トイレ側）

訪れた人のプライバシーを守り、こもれるようなゆとりと安心感のある 1 人空間を目指した。

風を誘う R の壁

トイレに風を取り込むため、開口部や壁は最も風の流れやすい形であるベルマウス形状（日本建築学会編『建築環境工学用教材 環境編』丸善 ,2008）をもとに、R を持たせている。



トイレ天井、倉庫天井のうらを抜ける空気層で自然換気を行う。断面図参照

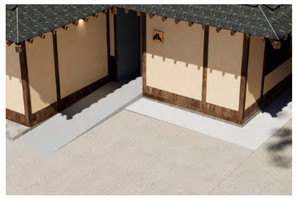
平面図 | 1:50 | 寸法 mm |

高さの基準：犬走り・トイレの FL ±0

多目的トイレ内観



女子トイレ内観



犬走りと外部のほそうに連続感をもたせる。



視認性の高い開口部とサイン計画

1. 西側
イベント時の景観を損なわない立面とサイン計画とした。

2. 北門側
入場時の圧迫感の軽減のための優しいサイン仕上げである

3. 西側
通り土間そのものが象徴的な休憩空間としてサインとなり、人々を奥へと誘う。



静と動

通り土間上の天井には鏡面ステンレスを採用。三景園の岩の隙間をゆるやかに流れる小川の様子を参考に日本の伝統的な観世水と呼ばれるパターンに揺らぎを加えた三景園オリジナルのパターンを作成した。
入口正面からみると、奥の緑が反射した鈍い光に揺らぎを与え、来館者を休憩所内部へと誘う。





モチーフとなる三景園の小川

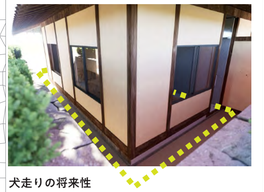


ベースとなった
葛飾北斎の立通観世水

ステンレスリップル
1750×900 サイズ
を 4 枚割り付け

犬走りの将来性

通り土間の北側に、犬走りに通ずる出入り口をもうけた。今後の運営方針により、この出入り口の開放と犬走りの開放が許された場合、土間と犬走りを囲むような回遊性のある路地空間が生まれる。





休憩スペース内観

外部とつながる多様な仕上げ

既存の外壁を尊重し材料はモルタルを用いる。窟の地層を複数の左官仕上げの違いによって表現する。掻き落とし、コテ抑え、骨材や着色の違いによってによって表情がまったく異なるものの単一の材料で仕上げることで、全体を通して多様なデザインでありながらも統一性とコストダウンを図った。実際に左官職人の元へ見学へ行き、テクスチャを検討した。



東壁面越しに石垣を見る。
石垣さえも空間の設えの
一部かのような一体的な
空間のレイヤーがある。



コテ抑え（上）と
掻き落とし（下）

二分サイズ
（≒ 約 6mm）の砕石
三景園の石を
使えるかを
今後検討予定



■ **概算工事費**

区分	金額（円・税別）
撤去工事費	1,450,000
改修工事費（建築）	14,110,000
改修工事費（電気設備）	2,790,000
改修工事費（機械設備）	8,180,000

項目	金額（円）
直接工事費（税別）	26,530,000
共通費	18,570,000
小計（税別）	45,100,000
消費税（10%）	4,510,000
税込合計	49,610,000

ローコストへの配慮

シンプルなボリューム操作（壁の配置）により低コストで豊かな空間体験を提供する。

ステンレスを既製品の寸法の範囲で 4 分割で割りつけることでコストダウンを図る。

開口の位置を絞ることで、空調負荷の低減しランニングコストの下げる。